

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2023年										2024年									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月 ~6日	10月 ~13日
カンピロバクター	63	57	67	75	49	29	47	43	65	20	24	38	25	57	50	39	41	50	15	8
病原性大腸菌	103	120	108	102	56	52	49	80	102	43	61	105	92	79	76	83	70	86	22 (23)	11
腸管出血性大腸菌	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	1	0	1	2	1	6	2	0	0
サルモネラ	7	7	13	25	6	12	15	6	9	4	4	2	7	5	8	12	29	13	4	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	21	8	12	15	18	21	18	16	6	4	16	4	12	21	11	17	24	1	0
黄色ブドウ球菌 MRSA	15	14	10	11	11	9	5	9	16	8	6	12	6	3	10	8	6	21	2	2
腸炎ピブリオ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	4	8	2	1	0	2	0	0	0	0	0	1	3	1	5	1	0	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
アデノウイルス	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
ノロウイルス	1	1	0	0	0	0	0	0	4	9	20	10	3	4	0	1	1	1	0	0

( )は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和6年第41週(10月7日~10月13日)

#### 2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7	1	1		1	4		
三類	3	腸管出血性大腸菌感染症	3				1		1	1
四類	3	日本紅斑熱	2			2				
		レジオネラ症	1			1				
五類	12	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1			1				
		急性弛緩性麻痺	1					1		
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		1					
		後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1						1	
		侵襲性肺炎球菌感染症	1			1				
		梅毒	7	1					5	

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

1 マイコプラズマ肺炎

定点当たり5.67人の報告があり、多い状況が続いています。小児を中心として流行する呼吸器感染症ですが、成人の報告もみられます。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

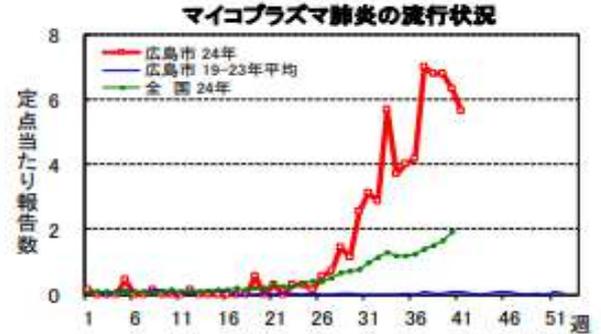
定点当たり2.43人の報告があり、前週の約1.7倍に増加しました。感染経路は、飛沫感染や接触感染で、2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感、毒舌などの症状が現れます。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

3 インフルエンザ

定点当たり0.58人の報告があり、増加傾向が続いています。今後、本格的な流行を迎えることが予想されます。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

4 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり0.75人の報告がありました。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1.2以上の増減							
												増減	微増減		横ばい	前週と比較しておおむね1.5～2の増減					
インフル	インフルエンザ	21	0.58	1.63	↑	小児科	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.69	○	報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。	<table border="1"> <tr> <td>インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>小児科定点数</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>眼科定点数</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>基幹定点数</td> <td>6</td> </tr> </table>	インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	36	小児科定点数	23	眼科定点数	8	基幹定点数	6
	インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	36																			
	小児科定点数	23																			
	眼科定点数	8																			
	基幹定点数	6																			
	新型コロナウイルス(COVID-19)	27	0.75	↓	○		流行性耳下腺炎	-	-	0.03	○										
	RSウイルス感染症	12	0.52	0.76	○		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-			○							
	咽頭結膜熱	5	0.22	0.37	○		流行性角結膜炎	6	0.75	0.38	○										
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	2.43	1.02	↑	細菌性髄膜炎	-	-	-	○												
感染性胃腸炎	54	2.35	2.45	○	無菌性髄膜炎	-	-	0.03	○												
水痘	3	0.13	0.14	○	基幹	マイコプラズマ肺炎	34	5.67	0.06	↑											
手足口病	44	1.91	1.34	○	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	○												
伝染性紅斑	2	0.09	0.07	○	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	○												
突発性発しん	5	0.22	0.29	○																	

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	85	40歳代、70歳代、80歳代、90歳代
5	急性弛緩性麻痺	1	2	10歳代
5	後天性免疫不全症候群	1	6	30歳代・エイズ
5	梅毒	5	132	30歳代・1人、40歳代・3人、60歳代・1人